

4. 18地区の活動紹介

領町地区



定数	18人(主任児童委員2人)
人口	25,928人
世帯数	13,293世帯

(平成29年4月1日現在)

主な取り組み・活動事例

「領町子育てサークル」

月1回(8、12月を除く)0～3歳の子どもとその保護者、約30組を対象に1時間程度の子育てサークルを開催しています。

核家族化が進む中、地域の身近なサークルに参加することで親の孤立を防ぎ、親子の友達作りのお手伝いをしています。また子育てに関する情報や子育ての楽しさ、大切さを伝えることを目的に活動しています。毎月テーマを変えて、親子ふれあい遊びや相談会など地域健康課や保育園、児童館の職員に協力してもらいながら、楽しく開催しています。

「みねまち生き生き安心プロジェクト(旧・要援護者の支援を考える分科会)」

ひとり暮らし高齢者などの要援護者の支援を考える、自治会連合会主催の分科会に参加しています。1年目は要援護者のピックアップや支援方法などを話し合い、避難場所などが記載されたパンフレットを作成しました。2年目は実際に町会役員と共に要援護者宅を訪問して記念品等をお渡しし、災害時に関するアンケートなどをとり、顔の見える関係づくりを行いました。

今年度は分科会名称が変更となり、フレイル予防(「栄養」「運動」「社会参加」)に重点をおいた活動が始まり、私たち民生委員も引き続き取り組んでまいります。



かつどう ようす
活動の様子



(H28.2.23：親子でストレッチ)



(H26.6.24：救命救急と心肺蘇生)



「嶺町子育てサークル」

(御嶽会館)

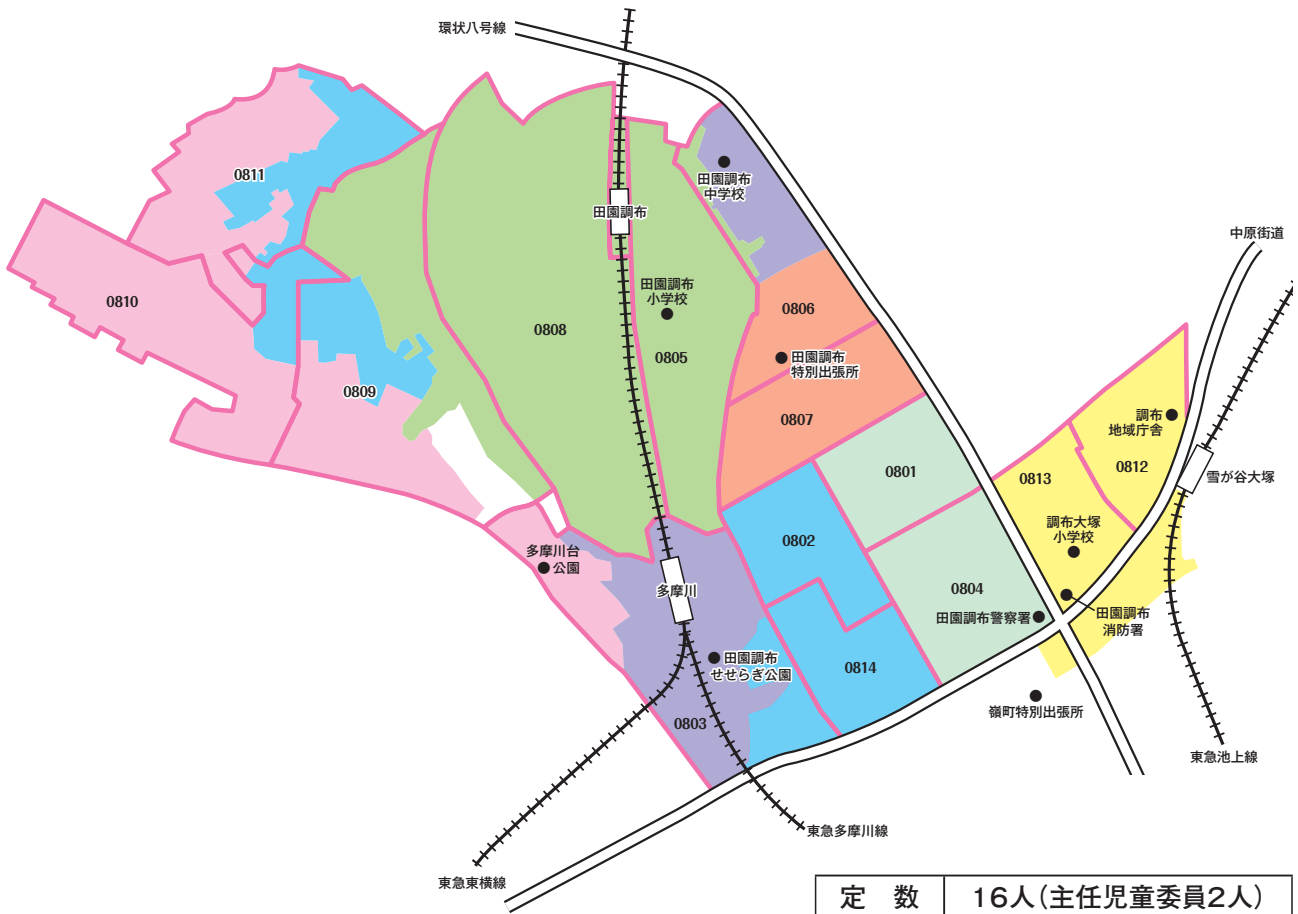


(H28.9.27：参加した親子が気持ちよく帰れるよう、ベビーカーを外に並べます。)

祝100周年



でん えん ちよう ふ ち く
田園調布地区



定数	16人(主任児童委員2人)
人口	21,468人
世帯数	10,223世帯

(平成29年4月1日現在)

主な取り組み・活動事例

「ミンジーカフェ」

地域包括支援センター田園調布と民生委員との共催で月1回(第2木曜日)開催しています。年齢制限などはなく、元気な高齢者であれば誰でも参加でき、毎回10～15名の方が参加されています。軽い体操、歌の指導、グラウンドゴルフ、落語会など毎月違った様々なメニューを行っています。

「夏休み工作教室(調布大塚小・お楽しみ会/田園調布小・わくわくスクール)」

田園調布地区管内の小学校2校で、夏休みに各1回、民生委員と青少年の共催で工作教室を開催しています。参加費は無料で、1年生から6年生までの児童が参加しています。

工作教室では、ビーズと安全ピンを使ったキャラクターブローチ作りを民生委員が先生となって教えています。



ビーズと安全ピンで作ったくまモン、ニコちゃん

「ミニ五者協」

年1回、田園調布地区管内の小中学校、特別支援学校、幼稚園、保育園、児童館と民児協で地域の子どもたちについて情報交換を行っています。

「小学校の先生との情報交換会」

田園調布地区管内の2小学校の全教員と民児協の情報交換会を年1回各小学校ごとに実施しています。



かつどう ようす
活動の様子



(H28.9.8 : 歌声サロン)

「ミンジーカフェ」
(嶺町文化センター)



(H28.9.8 : 介護予防体操)



(H29.6.8 : グラウンドゴルフ)

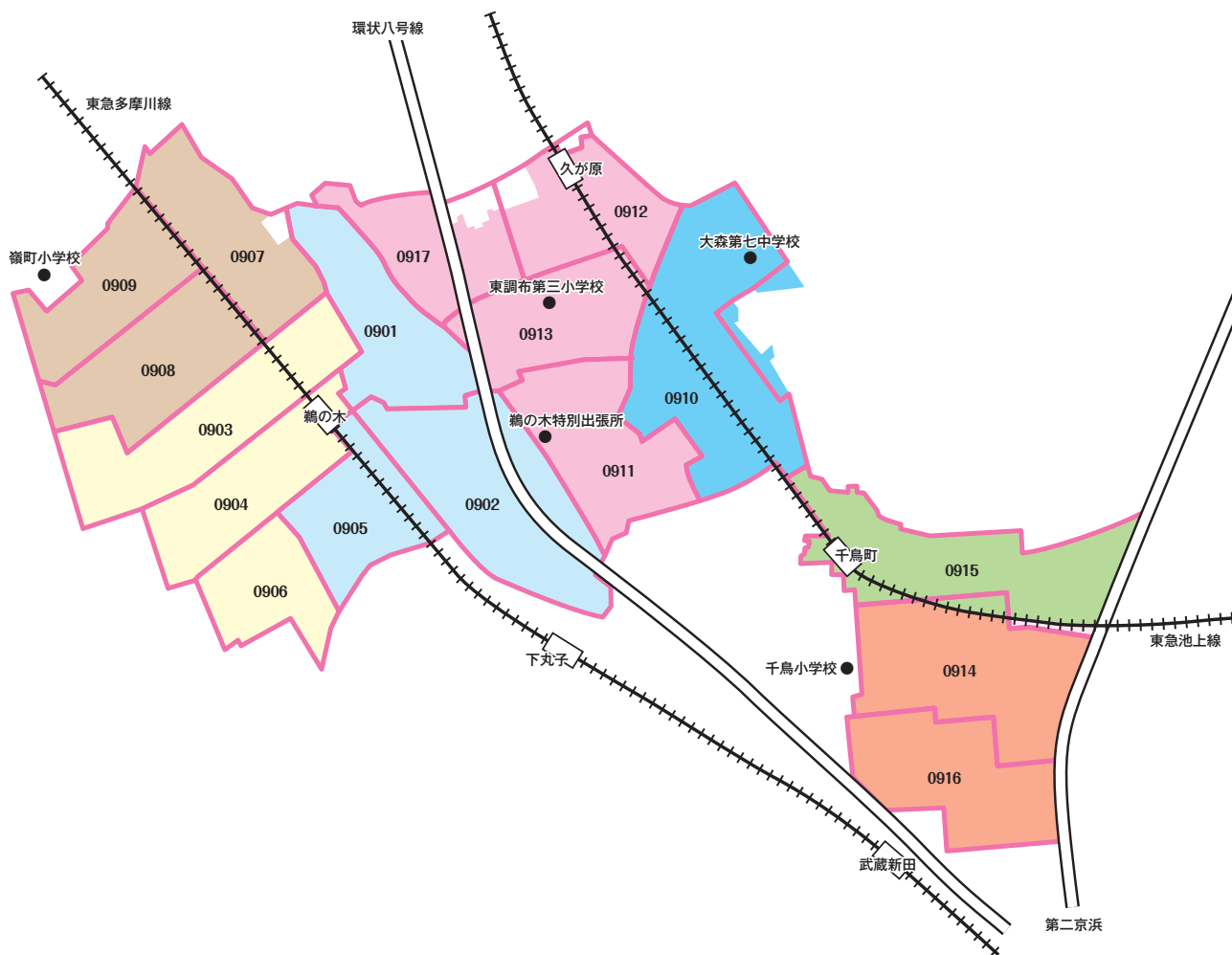


(H28.10.23 : 上池台障害者福祉会館)

「虹まつり」お手伝い



う き ち く 鶺の木地区



定数	19人(主任児童委員2人)
人口	24,997人
世帯数	13,548世帯

(平成29年4月1日現在)

主な取り組み・活動事例

「鶺の木地区高齢者ふれあいフェスタ」

鶺の木地区では、月1回ひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯を対象として、高齢者ふれあい事業を行っています。3か所でそれぞれ「もみじ・鶺の木・千鳥元気塾」と称し、生活に役立つ話や歌、茶話会などを開催して、参加される方が仲間の輪を広げていただく地域交流活動となっています。

この「もみじ・鶺の木・千鳥元気塾」の3つの元気塾の集大成として、毎年3月に区民プラザでふれあいフェスタを開催しています。元気な高齢者の方々が多数参加され、民生委員や町会、企業が協力しているほか、中学校や高校の生徒達もボランティアとして若い力を発揮する楽しいイベントとなっています。

「防犯防災パトロールへの協力支援」

民生委員、町会役員で小学生の帰宅時間を中心にパトロールし、防犯防災、高齢者や児童の見守り支援を行っています。

「ひとり暮らし高齢者訪問支援」

防火防災週間に消防と連携して高齢者宅を訪問し、防火防災について啓発を行っています。



かつどう ようす
活動の様子



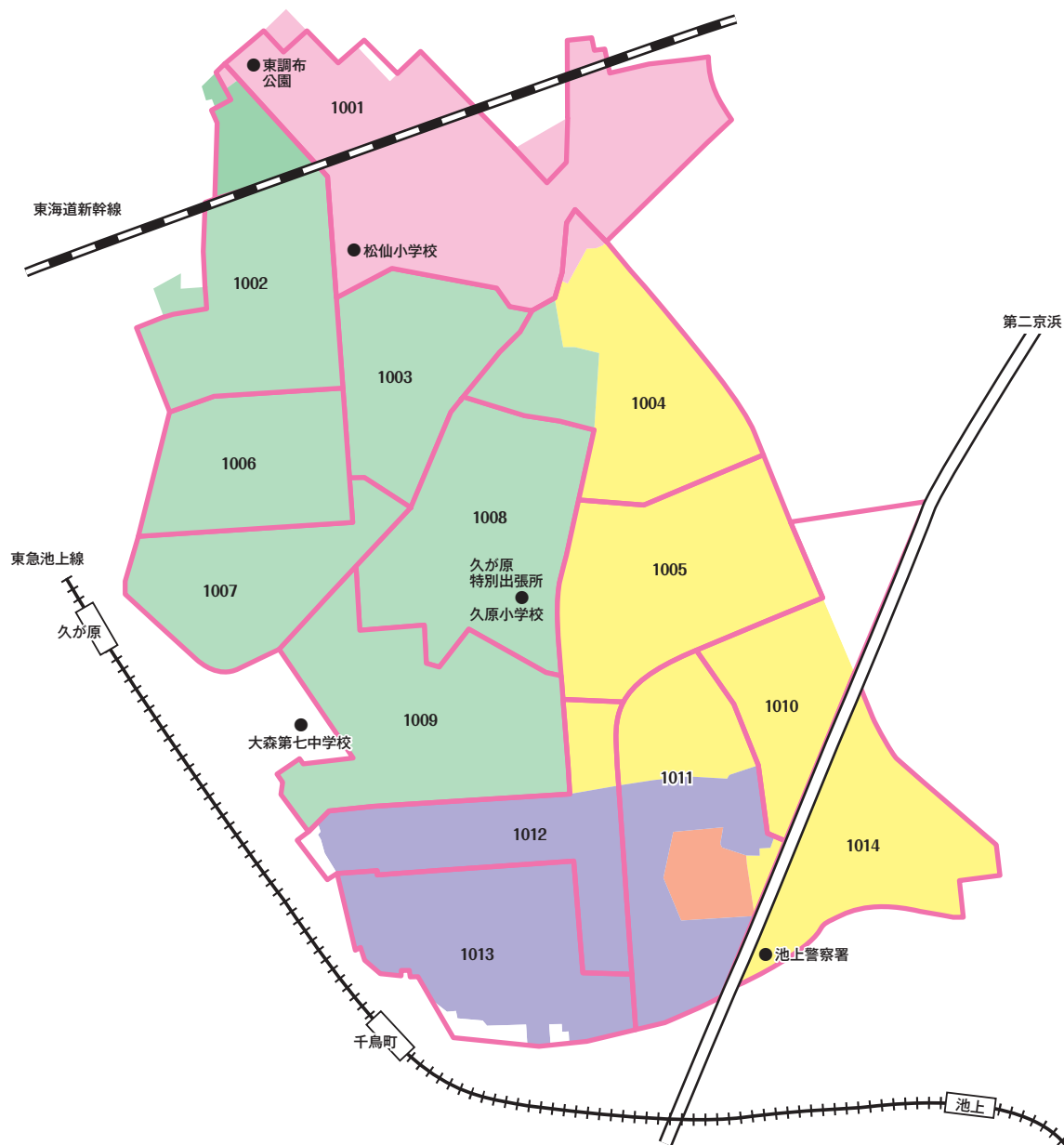
「鶉の木地区高齢者
ふれあいフェスタ」

毎年約 750 人が参加されます。
鶉の木地区を代表するイベント
の一つです。

(H29.3.10 : 大田区民プラザ)



久が原地区



主な取り組み・活動事例

定数	16人(主任児童委員2人)
人口	28,758人
世帯数	13,331世帯

(平成29年4月1日現在)

「すくすくネット」

年2回のすくすくネット会議に出席するほか、子育て講座や夏休み工作、親子運動会、幼児お楽しみ会、お正月遊びなどの季節イベントに年7～8回参加し、子どもたちと交流を図っています。また、地域の情報交換の場としても役立てています。

「地域包括支援センターとの懇談会」

年1回、また必要に応じて民生委員と地域包括支援センター、池上長寿園職員と懇談を開催しています。各地区担当の職員の方と民生委員との顔合わせを行い、地域の課題や情報交換等を行うことで連携を深めています。



かつどう ようす
活動の様子



(H29.8.28: 特別養護老人ホームシーサイド湯河原 / 神奈川県)

施設見学

「ライラック祭り」
お手伝い

ライラック通り商店街で毎年開催され、お手伝いをしています。



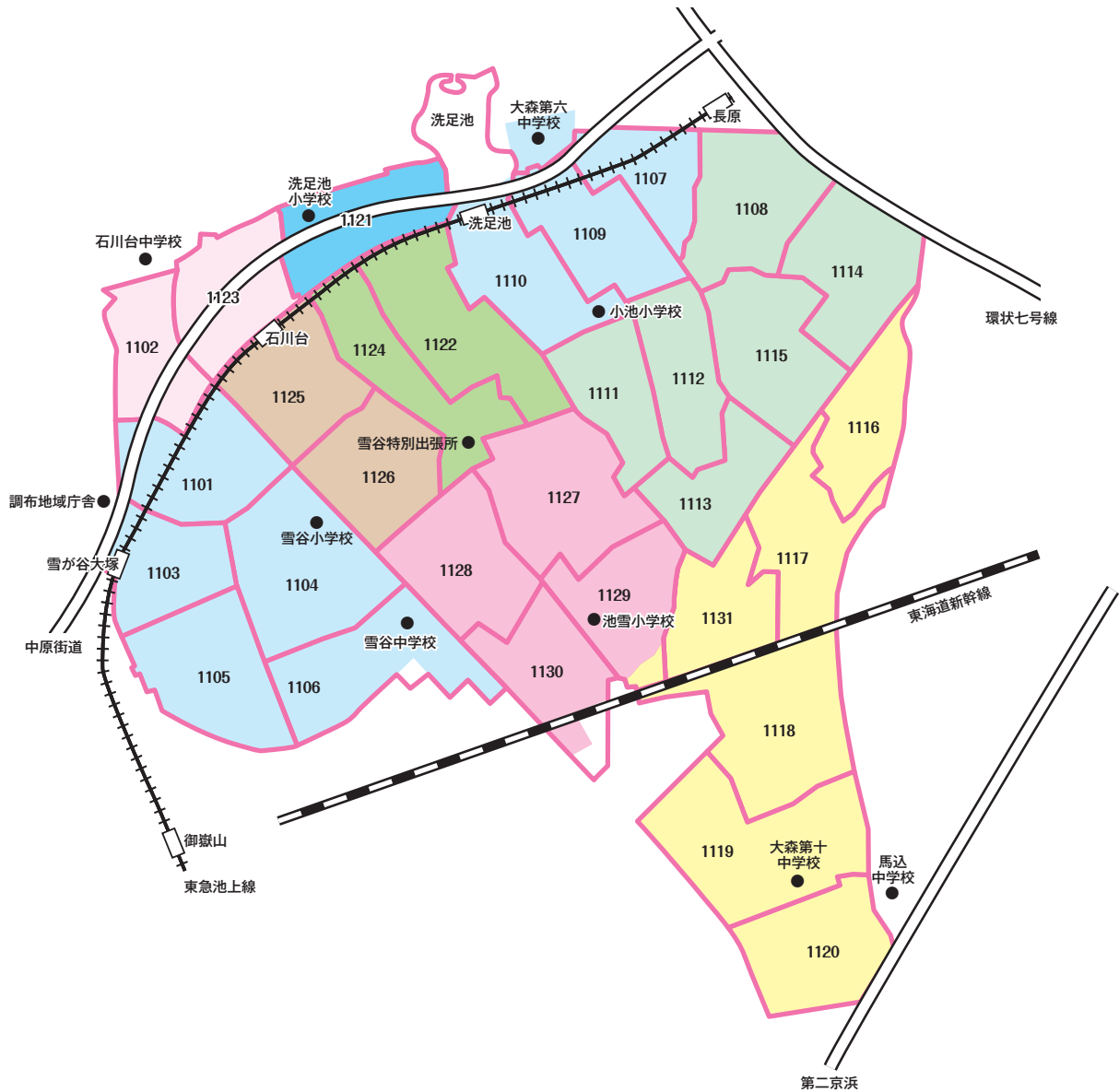
(H28.10.23: 上池台障害者福祉会館)

「虹まつり」お手伝い



4. 18地区の活動紹介

ゆきがやちく 雪谷地区



定数	33人(主任児童委員2人)
人口	61,526人
世帯数	30,210世帯

(平成29年4月1日現在)

主な取り組み・活動事例

「ゆきがや広場」

地域の高齢者を対象に、月1回(6～9月は2回)開催しています。体操や折り紙、手芸、測定会など月替わりの行事を行った後、全員でお茶菓子を囲んで懇談をしています。参加費は無料で、誰にでも開かれた交流の場を目指しています。また、関係機関にお話や体操指導をしてもらったり、地域の高齢者が指導者として社会参加する場の提供もしています。

「折り紙教室」

雪谷地区管内の小学校と児童館で折り紙教室を開催しています。小学校は夏休み期間中、季節の折り紙で作品作りを行います。小学1年生は親子で参加もできるようにして、1～5年生まで50名前後の児童が参加しています。児童館では年7回開催して、親子との交流を図っています。



かつどう ようす
活動の様子



(H28.3.2 : フラワーアレンジメント教室)

【ゆきがや広場】



(H28.4.5 : ヨガ教室)



(H29.7.26 : 雪谷小学校)

【折り紙教室】



(H29.7.26 : 小池小学校)



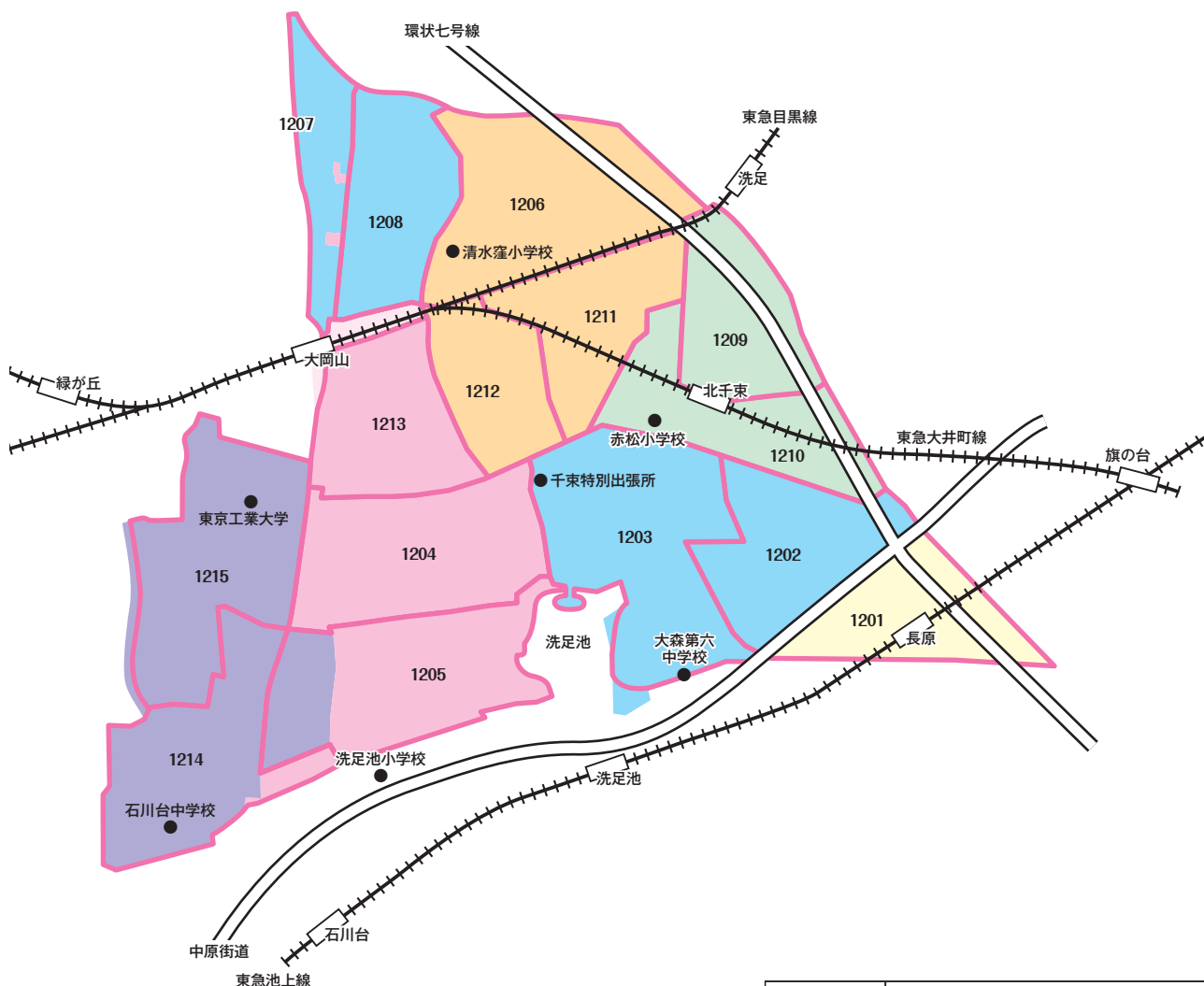
【児童館夏まつり】 (H29.7.8 : 上池台児童館)



【大田区子どもガーデンパーティ】(H29.4.30)



千 束 地 区



定 数	17人(主任児童委員2人)
人 口	24,535人
世帯数	13,347世帯

(平成29年4月1日現在)

主な取り組み・活動事例

「すくすくネット」

月2回、児童館で児童を対象に工作教室や幼児の運動会、お楽しみ会などの手伝いをしています。また、洗足池では毎年シジュウカラの巣箱の取り付け、外しを行い、地域の子どもたちと交流を図っています。毎年10月に児童館のまわりや八幡神社付近など5か所に2つずつある巣箱を取り外し、11月に取り付けています。取り外した時には子どもたちと巣を作ったかどうか確認します。

「地域ふれあいの会」

平成15年に発足した“地域ふれあいの会”は、年6回、65歳以上の高齢者30～40名を対象に開催しています。小学校や文化センター、特別出張所などで行っています。ピアノや津軽三味線の演奏、健康教室などの講演を聞いてもらったり、小学校の給食を楽しんでいただいたり、多彩に計画をして開催しています。会を通して参加者との交流を図り、地域交流の場となるよう工夫を凝らしています。



かつどう ようす
活動の様子



【工作教室】(H24.5.24：洗足池児童館)



【すくすくネット会議】(H26.6.19：洗足池児童館)



【施設見学】(H28.4.25：救世軍機恵子寮 / 大田区)



(H28.9.30：津軽三味線)



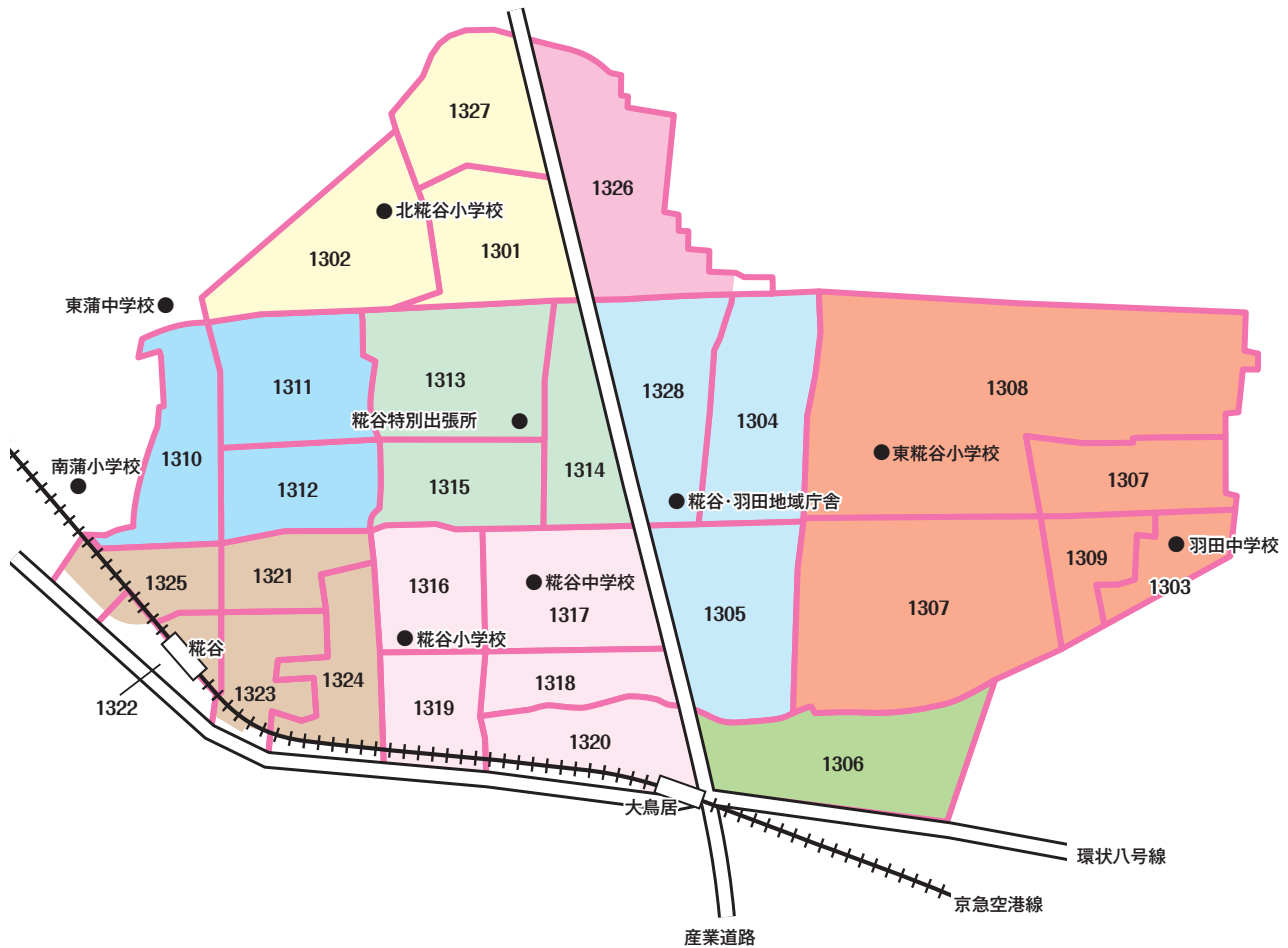
(H29.3.9：フラダンス)

【地域ふれあいの会】



4. 18地区の活動紹介

糞谷地区



定数	30人(主任児童委員2人)
人口	38,831人
世帯数	20,973世帯

(平成29年4月1日現在)

主な取り組み・活動事例

「高齢者サロン」

外に出る機会の少ない孤立しがちな高齢者の介護予防や認知症予防、そして仲間づくりのお手伝いを目指して、月に2回、10年間に渡って開催しています。

ビデオを見ながら体操したり、声を出して歌ったり、モノづくりをしたり、お菓子を食べながら和気あいあいとおしゃべりをして楽しんでいます。皆さんが笑顔で帰っていく姿を見ると、これからも地域に寄り添った活動を続けていきたいと思ひます。

「福祉のまち 糞谷 夏のおまつり」

毎年8月、糞谷地区一体となって福祉施設の夏祭りが行われます。民生委員も手分けして各施設にお祭りのお手伝いに行っています。フリーマーケットや高齢者疑似体験、焼きそば販売など様々です。最後は、民児協全員で民生委員の浴衣を着て、施設利用者や職員と一緒に盆踊りで締めくくります。



かつどう ようす
活動の様子



(バザー：うめのき園)



(焼きそば：特別養護老人ホーム糀谷)

「福祉のまち 糀谷
夏のおまつり」

(H28.8.21)



(高齢者疑似体験：特別養護老人ホーム千里)



(盆踊り：特別養護老人ホーム糀谷)



(ペン立て作り：西糀谷一丁目町会会館)

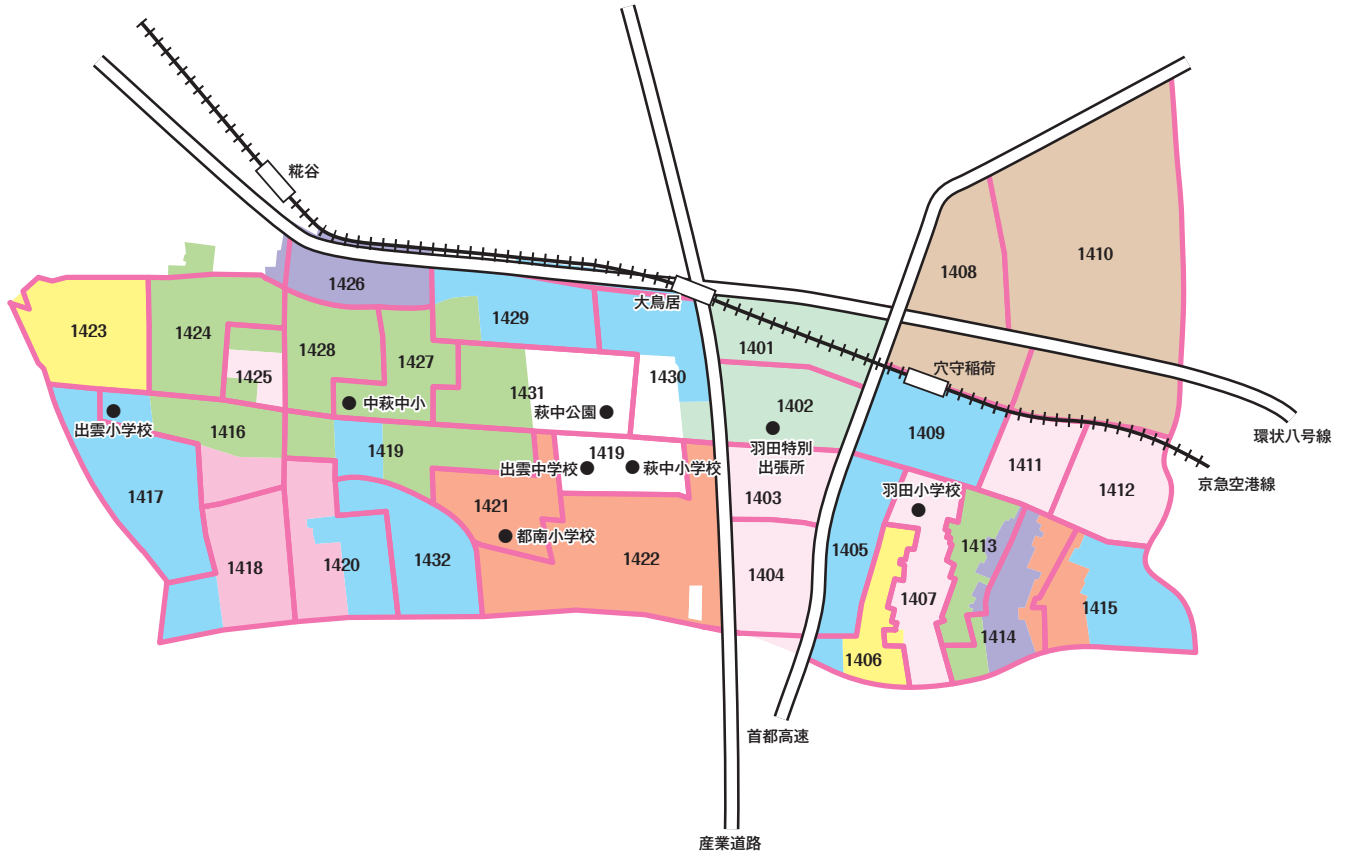
「高齢者サロン」

(介護予防体操：西糀谷一丁目町会会館)



4. 18地区の活動紹介

羽田地区



定数	34人(主任児童委員2人)
人口	38,709人
世帯数	20,461世帯

(平成29年4月1日現在)

主な取り組み・活動事例

「児童館との懇談会」

年1回、羽田地区管内の児童館長を招き、懇談会を行っています。担当地域でグループ別に分かれて子どもたちの近況や情報交換を行っています。子どもたちの見守りについて考え、相互の連携を深めています。

「体操教室」

高齢者向けの体操教室を開催しています。町会により異なりますが、月1回の体操教室には30人程集まるところもあります。地域の高齢者の交流の場として定着しつつあり、毎回楽しんで参加されています。



かつどう ようす
活動の様子

「萩中祭」お手伝い



(H28.11.6 : 大田生活実習所)

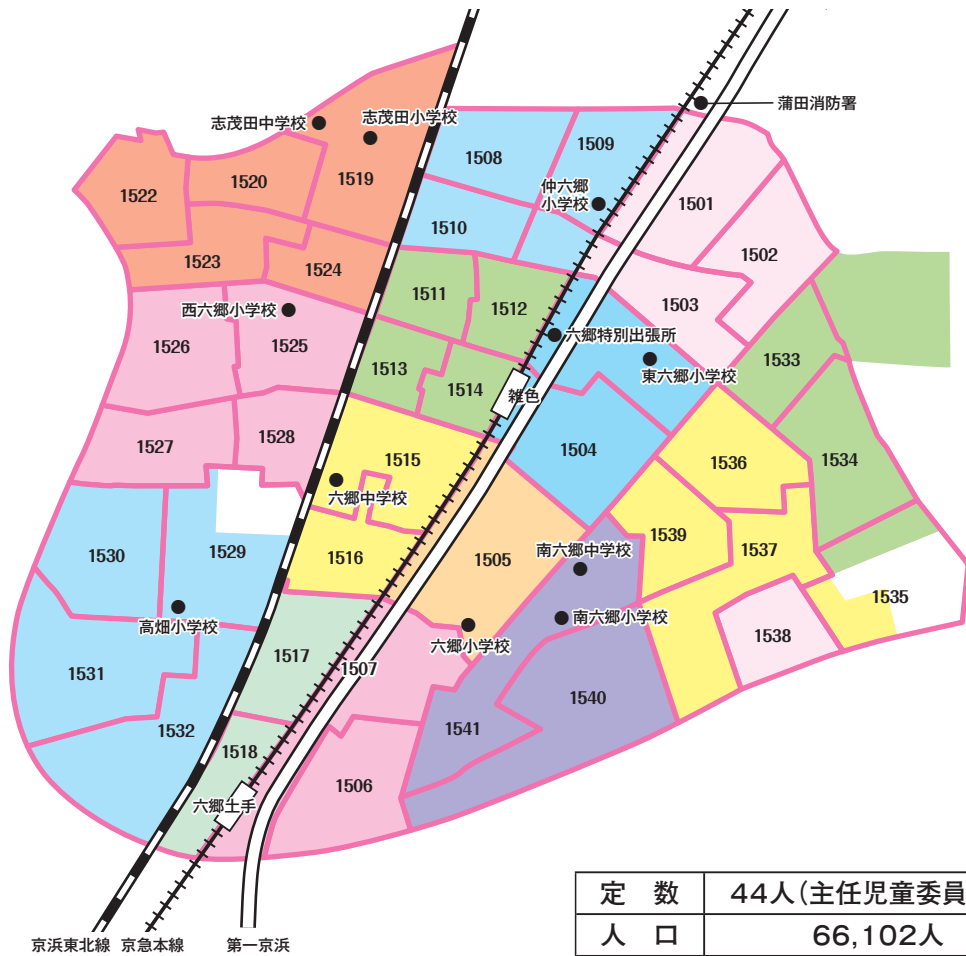
「ふれあいまつり羽田・萩中」お手伝い



(H28.10.23 : 萩中集会所)



ろくごうちく
六郷地区



定数	44人(主任児童委員3人)
人口	66,102人
世帯数	33,661世帯

(平成29年4月1日現在)

主な取り組み・活動事例

「六郷民児協 輪投げ大会」

毎年、大田区子どもガーデンパーティー六郷会場で、民児協で輪投げブースを出店しています。600～650名の子ども達が参加する大人気のブースとなっています。輪投げブースの周りには民生委員ののぼり旗を掲示、民生委員はおそろいのエプロンを着用し、遊んだ子どもたちへリーフレットを配布して民生委員児童委員活動のPRを行っています。

「施設研修」

毎年10月、民生委員活動の糧となるような施設（障害者就労支援施設、高齢者支援施設、児童養護施設など）へ民児協全員で見学に行っています。

「高齢者と子どもの見守り活動」

年に3回、町会役員と市民消防隊と協力し、ひとり暮らし高齢者を訪問し安否確認をしています。訪問を心待ちにしている方もおり、大変喜ばれています。年々高齢者が増える一方ですが、この訪問活動を通して孤立を防ぎ、地域のコミュニティ形成の一助になればと思い、活動を続けています。

また、週に2日、2人1組になって登校時の子どもたちの見守りを行っています。通学路を、運転手は徐行したり止まったりなど気をつけて運転されていますが、自転車はものすごいスピードで横切っていくことが多く、大変危険だと危惧しています。これからも子どもたちの安全を守り、見守りを続けていきます。



かつどう ようす
活動の様子



「六郷民児協 輪投げ大会」(H28.5.8：大田区子どもガーデンパーティー / 六郷会場)



「施設研修」

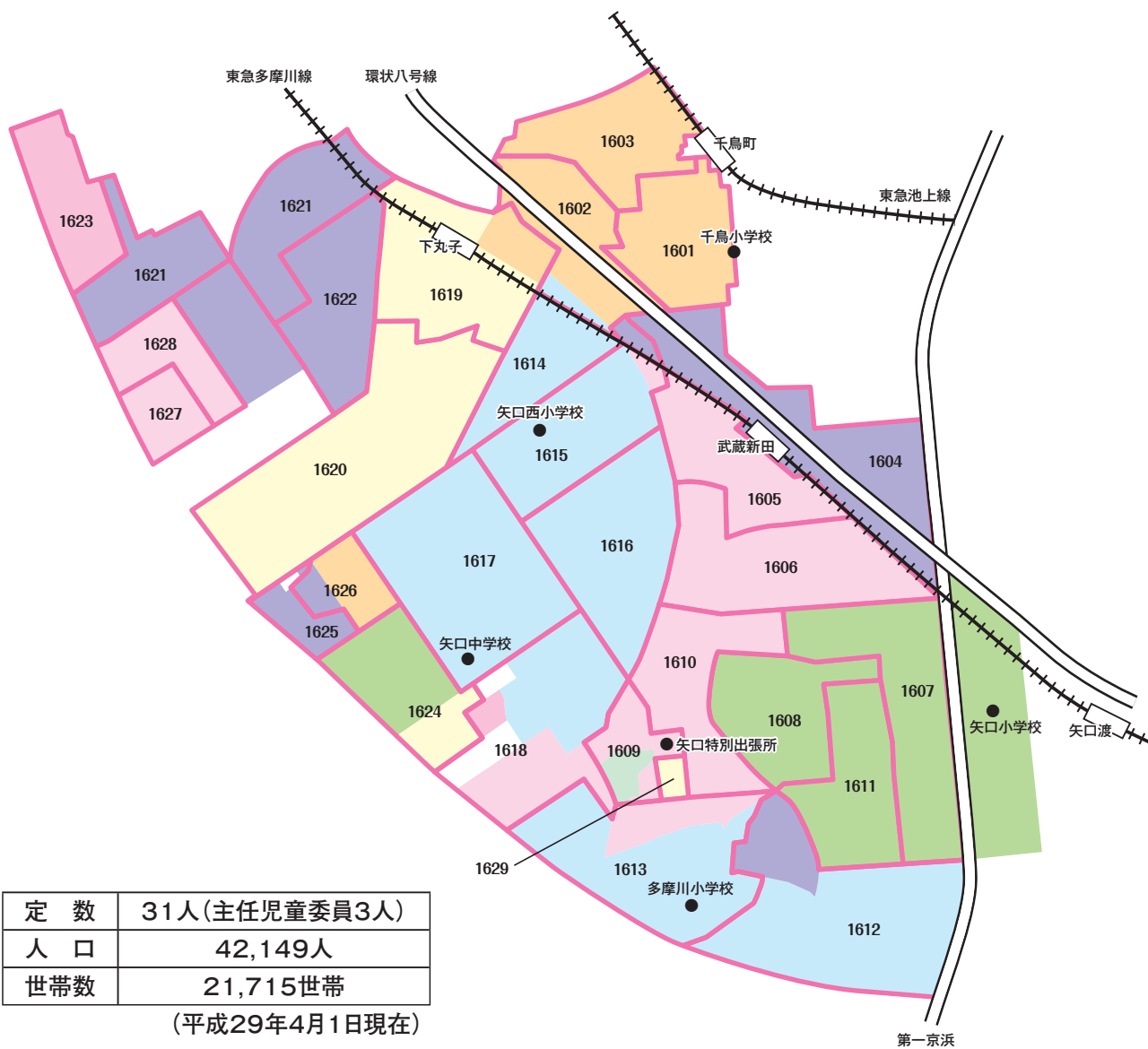
(H27.10.4)

平成18年に設立された、盲導犬育成のための多目的施設、日本盲導犬センター「富士ハーネス」を見学しました。

ボランティアの方が盲導犬育成に努力している姿に感銘を受けました。



矢口地区



主な取り組み・活動事例

「地域包括支援センターとの連絡会」

年1回、民生委員と地域包括支援センター職員で地域の情報交換を行っています。4グループに分かれ、1グループ2名程度地域包括支援センターの職員に入ってもらい、ひとり暮らし高齢者や老老介護、高齢者のみの世帯などの情報交換を主に行います。地域の課題の整理や情報交換などを行って、民生委員と地域包括支援センターとの更なる連携を図っています。

「児童館のお手伝い」

矢口地区管内に4つある各児童館へ年数回、お手伝いに行っています。すくすくネット会議に出席するほか、運動会やクリスマス会、ハロウィン、お別れ会などの行事のお手伝いを通して、親子と交流を図っています。



かつどう ようす
活動の様子

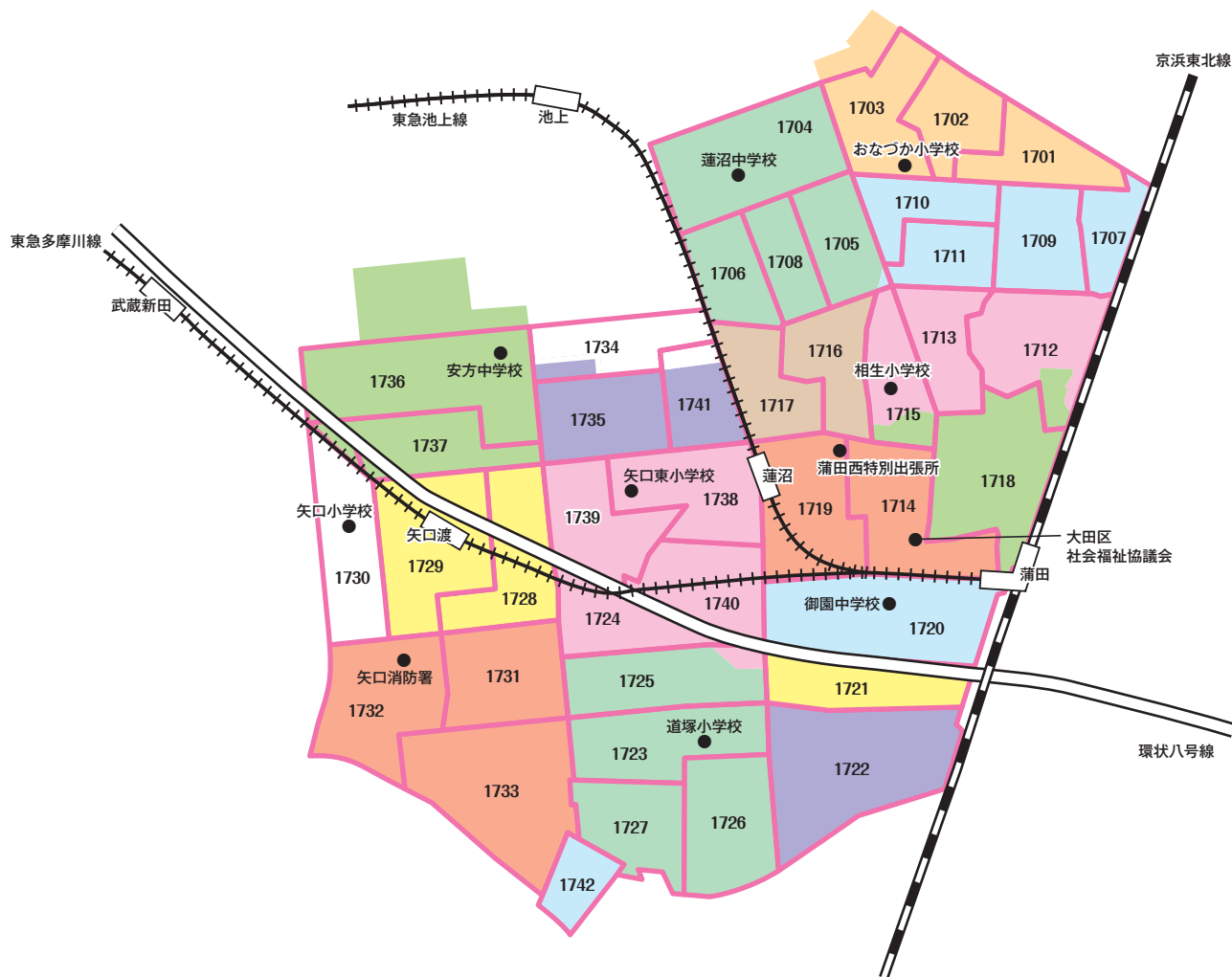


「地区民児協の様子」
(H29.7.25 : 矢口特別出張所)



4. 18地区の活動紹介

蒲田西地区



定数	45人(主任児童委員3人)
人口	61,879人
世帯数	34,914世帯

(平成29年4月1日現在)

主な取り組み・活動事例

「ママほっとタイム」

“子育て中のママの応援”をテーマに、年2回開催しています。民生委員、子ども家庭支援センター、特別出張所の協力のもと運営しています。

ママたちには、民生委員が講師を務めるリフレッシュ体操で日々の疲れを取ってもらい、体操後はティータイムを開いてゆっくりとくつろげる時間を提供しています。その間子どもたちはママの代わりに民生委員が子守りをしています。

「高齢者サロン活動 (はすぬま茶話会、なかよし道塚)」

高齢者の引きこもり防止を目的として始まった取り組みです。民生委員、民生委員OB、地域包括支援センター職員で運営し、蒲田西地区内2か所でそれぞれ開催しています。

歌や講演会、折り紙などのほか、季節ごとのイベントも実施しています。また、地域包括支援センターに脳トレや認知症予防体操教室をしていただいたり、地域の保育園の園児が歌や踊りなどで遊びに来てくれたり、毎回様々なメニューで楽しんでいただいています。



かつどう ようす
活動の様子



「ママほっとタイム」
(H28.2.25: キッズな蒲田)



(H29.2.15: はすぬま茶話会/ふれあいはすぬま)

「高齢者サロン活動」



(H28.12.10: なかよし道塚/道塚自治会館)

4. 18地区の活動紹介

蒲田東地区



定数	34人(主任児童委員2人)
人口	45,517人
世帯数	27,654世帯

(平成29年4月1日現在)

主な取り組み・活動事例

「介護予防教室」

町会ごとに地域の高齢者を対象にした介護予防のための体操教室を開催しています。講師の指導の下、椅子にかけたままの体操や太極拳、ストレッチ体操などを行います。終了後はお茶とお菓子を囲んで懇談を行い、参加者と交流を図っています。

「お茶会」

毎年1月に、おおたっ子ひろばや蒲田児童館で地域の小学生を対象に、民生委員8～10名が中心になり「お茶会」を開催しています。お点前やお茶菓子を食べて、お茶会の雰囲気味わってもらっています。



かつどう ようす
活動の様子



介護予防体操



終了後の茶話会

【介護予防教室】(H28.10.13: 南蒲一会館)



【お茶会】(H25.1.23: おおたっ子ひろば)



バザー

【萩中祭】お手伝い (H 28.11.6: 大田生活実習所)

民生委員制度の歴史



昭和3年
左：方面カード調査
右：乳幼児愛護デー



◆民生委員制度の起源 《濟世顧問制度》



御下問を受ける笠井知事

当時の岡山県知事であった笠井信一氏が、大正天皇から「県下の貧民の状況はどうか」との御下問を受け、すぐに貧困者の実情を調査したところ、悲惨な生活状態にある者が県民の一角に達していることが判明した。ドイツのエルバーフェルト市で行われていた「救貧委員制度」を参考に、大正6年5月12日、「岡山県濟世顧問設置規程」を公布した。「防貧」を目的とし、貧民の自立を促すために物資を提供するだけでなく、**濟世顧問に任じられた地域の篤志家が相談に応じた。**

◆東京の民生委員の始祖 《救済委員制度》

東京では当時東京府知事であった井上友一氏の指導により、大正6年2月に「東京府慈善協会」が設立された。会長は井上知事、顧問には**渋沢栄一氏、田尻稲次郎氏、府下約200の慈善救済団体を正会員とする民間団体であった。**

その東京府慈善協会が、大正7年6月に「東京府慈善協会救済委員」を設置し、**東京府内を14方面に分け、地域状況を調査し、貧困家庭の相談に乗った。**



大正7年 米騒動は全国に波及
東京府は指定廉売所を設置

◆民生委員制度の前身 《方面委員制度》

大正7年秋の夕暮れ、理髪店にいた当時の大阪府知事 林市蔵氏が目にとめたのは**鏡に映った夕刊売りの母子**。生活状況を確認すると、夕刊売りでやっと生計を立てていることが分かった。



そこで、社会事業の権威として東京から招かれていた小河滋次郎博士の協力を得て、大正7年10月に「方面委員制度」を創設し、管内をいくつかの方面に分け、委員を置き、生活状況の調査と救済の実務にあてた。

方面委員制度は全国に広がり、民生委員制度の前身となった。東京でも大正9年に設置された。

	年	できごと	大田区のできごと	
大正	1917 (大正6)	「岡山県濟世顧問」設置		
	1918 (大正7)	第一次世界大戦終戦 「東京府慈善協会救済委員」設置 「大阪府方面委員」設置		
	1920 (大正9)	「東京市方面委員」設置		
	1923 (大正12)	関東大震災		
昭和	1927 (昭和2)	【制度創設10周年】		
	1929 (昭和4)	救護法公布		
	1931 (昭和6)	全国方面委員代表「救護法実施請願の表」を上奏	<p>《皇居前に整列した全国方面委員代表》 公布されたものの一向に実施されない救護法に対し、方面委員は、その実施促進に総力を結集しました。国への陳情を重ねるも状況は好転せず、やむを得ず昭和6年2月、上奏を決意しました。こうした運動の結果、事態は急展開を見せ、翌年1月より施行されることになりました。</p>	
	1932 (昭和7)	救護法施行 全日本方面委員連盟発足 東京市方面委員連盟結成		
	1936 (昭和11)	方面委員令公布		
	1937 (昭和12)	【制度創設20周年】		
	1939 (昭和14)	第二次世界大戦開戦		
	1943 (昭和18)	都政施行「東京都方面委員」	方面委員の積極的協力が求められました。	
	1945 (昭和20)	第二次世界大戦終戦 東京都方面委員連合会結成 「生活困窮者緊急生活援護要綱」閣議決定		
	1946 (昭和21)	第1回東京都民生委員大会開催 旧生活保護法・民生委員令公布・施行	方面委員は民生委員と改称されました。	
	1947 (昭和22)	【制度創設30周年】 児童福祉法公布	「児童委員」制度の誕生。民生委員が児童委員に充てられました。	大森区と蒲田区が合併し「大田区」が誕生
	1948 (昭和23)	児童福祉法施行 民生委員法公布・施行		大田区民生委員児童委員協議会設立 白田 吉蔵 初代会長就任
	1950 (昭和25)	生活保護法公布・施行		
1951 (昭和26)	「民生委員信条」制定			




	年	できごと	大田区のできごと
昭和	1952 (昭和27)	「民生委員一人一世帯更生運動」の申し合わせ	
	1954 (昭和29)		石渡 豊吉 第2代会長就任
	1955 (昭和30)	(財)東京都民生委員事業協会設立 世帯更生資金貸付制度創設	
	1957 (昭和32)	【制度創設40周年】	
	1959 (昭和34)		宮嶋房太郎 第3代会長就任
	1964 (昭和39)	東京オリンピック開催	
	1965 (昭和40)		山川 廣吉 第4代会長就任
	1967 (昭和42)	【制度創設50周年】	
	1968 (昭和43)	「居宅ねたきり老人の実態調査」全国実施	
	1971 (昭和46)		下村 正夫 第5代会長就任
	1974 (昭和49)		杉崎 憲明 第6代会長就任
	1975 (昭和50)		根岸 澄 第7代会長就任
	1977 (昭和52)	【制度創設60周年】 「在宅ねたきり老人介護者の実態調査」全国実施	
	1980 (昭和55)	児童委員、児童相談所、学校等の関係機関による 地区連絡協議会開催要領制定	加藤 錬吾 第8代会長就任
1987 (昭和62)	【制度創設70周年】		
平成	1989 (平成元)		吉澤與四郎 第9代会長就任
	1992 (平成4)		渡辺 昌房 第10代会長就任
	1994 (平成6)	主任児童委員制度創設	「児童委員、児童相談所、学校等の関係機関による 地区連絡協議会(三者協)」開催を決定
	1995 (平成7)	阪神・淡路大震災	榎本 久雄 第11代会長就任
	1997 (平成9)	【制度創設80周年】	
	2000 (平成12)	民生委員法一部改正	
	2001 (平成13)	児童福祉法一部改正	波田野健一郎 第12代会長就任
	2004 (平成16)	新潟県中越地震	
	2006 (平成18)	「災害時一人も見逃さない運動」の全国展開	
	2007 (平成19)	【制度創設90周年】 都「民生・児童委員協力員事業」開始	大和田圭一 第13代会長就任 「大田区児童委員の活動指針」制定 (参照P11)
	2010 (平成22)		吉野 鷹夫 第14代会長就任 「三者協」に児童館と子ども家庭支援センターが加 わることを受けて、「五者協」に変更 (参照P10)
	2011 (平成23)	東日本大震災 都民連「東日本大震災子ども応援募金」開始 民生委員児童委員、主任児童委員イメージキャラクター 「ミンジー」誕生	
	2013 (平成25)		平石 昭夫 第15代会長就任
	2016 (平成28)	熊本地震	
2017 (平成29)	【制度創設100周年】	大田区制70周年	

低所得世帯の自立を支援する制度が作られました。現在の「生活福祉資金貸付制度」です。

《介護者実態調査》
ねたきり高齢者を世話している家族介護者の苦労が明らかになりました。その後のショートステイなどのサービス創設に大きな影響を与えました。

《世帯更生運動の展開》
積極的に防貧活動を強化し、一人の民生委員がたとえ一世帯ずつでも更生させていこうと、第7回全国民生委員児童委員大会で提案・決議され、全国的に取り組みを展開しました。
この運動の中で低所得者に貸し付けを行う資金が設けられ、1955年には国からの補助を受けて正式に「世帯更生資金貸付制度」として発足しました。
これが現在の生活福祉資金制度へとつながっています。



《“ミンジー”誕生》
地域の皆さんに親しみを持ってもらえるよう、民生委員児童委員のキャラクター「ミンジー」が誕生しました。その親しみやすさ、可愛さから平成27年度から全国展開しています。



《全国初のねたきり高齢者調査》
高齢者人口が増加するなか、自宅で長期間、ねたきり状態にある高齢者が増加していることを受け、当時、全国13万人の民生委員が一斉に調査を行いました。結果、70歳以上のねたきり高齢者が20万人以上もいることを明らかにしました。
在宅で生活するねたきり高齢者の状況を明らかにしたわが国初の調査であり、社会に大きな衝撃を与え、その後のサービスの拡大に大きな影響を与えました。

6. これからの100年に向けて

活動強化方策（東京版）

目的： 100年の歴史ある実践を受け継ぐとともに、東京の民生委員児童委員、民児協に共通する活動の方向性と具体的取り組みを活動強化方策として提起する。

期間： 平成29年度～平成38年度（10年間）

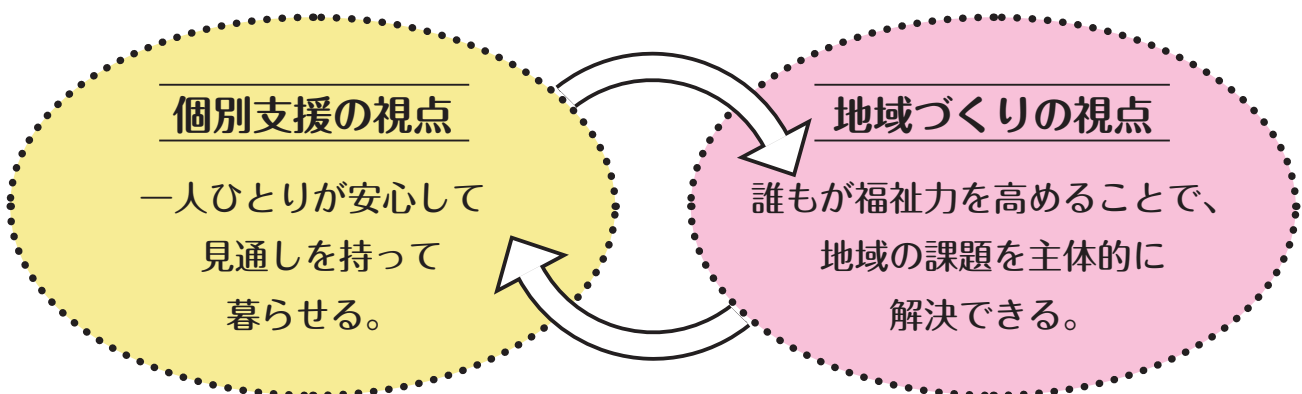
スローガン： 「仲間とつくる 地域のつながり」

※仲間…委員同士、関係者、住民など地域のあらゆる主体

◆ 活動強化方策の5本の柱

支援力を高める	個別支援活動の向上	住民に寄り添い、ニーズをつかみ、適切な支援に結び付ける力量を高めます。
チームで動く	班体制の確立	近隣の委員同士がチームとなり、地域と向き合いながら、課題解決につなげます。
組織を活かす	民児協組織の強化	期待と信頼に応えるために運営力を磨き、地域とともに成長できる組織を目指します。
子どもを育む	児童委員活動の充実	活動の現状を点検し、担うべき役割を整理し、子どもと家庭を育む豊かな取り組みを展開します。
地域をむすぶ	協働による地域福祉活動	関係機関や団体とのさらなる連携のもと、住民、地域を巻き込んだ協働の実践を広げます。

◆ 目指すべき地域社会の姿



それぞれの地域課題を主体的に解決できる地域社会



これからの100^{ねん}年^むに向けて

民生委員制度は、100年前に防貧方策として岡山県で始まった濟世顧問制度に端を發しますが、貧困、災害時支援、児童虐待と様々な福祉課題に合わせて、担う役割が変化してきています。

最近では少子高齢化の進行、人間関係の希薄化、価値観の多様化などに伴う地域社会の変化により課題も様々となりました。

生活困窮者の増加、子どもや高齢者、障がい者に対する虐待、特殊詐欺などによる被害、認知症高齢者の行方不明、子どもの貧困など、従来の福祉の枠組みだけでは解決できない範囲にまで課題が広がっています。

このような状況の下、関係機関による支援を実現するためにはその連携の強化を意識した活動が必要となっています。

1年先すら不透明な今日、10年先、100年先の社会がどうなっているか想像が付きませんが、民生委員児童委員が地域に在って支援を必要とする方たちに寄り添い、見守り、相談に乗り、関係機関に橋渡しをするという100年間続いてきた取り組みは、いつの時代でも社会から求められる民生委員の根幹の役割であると信じています。

私たちは、そうした必要性を認識しつつ、時代の変化に対応できるように自己研鑽に努め、地域ネットワークの構築を一層進めていきたいと思ひます。

大田区民生委員児童委員協議会

民生委員制度創設100周年記念誌

平成29年10月発行

大田区民生委員児童委員協議会事務局

大田区福祉部福祉管理課援護係

電話：03-5744-1245

民生委員児童委員信条

- 一 わたくしたちは隣人愛をもって
社会福祉の増進に努めます
- 一 わたくしたちは常に地域社会の
実情を把握することに努めます
- 一 わたくしたちは誠意をもって
あらゆる生活上の相談に応じ
自立の援助に努めます
- 一 わたくしたちはすべての人々と協力し
明朗で健全な地域社会づくりに努めます
- 一 わたくしたちは常に公正を旨とし
人格と識見の向上に努めます



民生委員・児童委員 PRキャラクター

ミンジー



©大田区

大田区公式 PRキャラクター

はねぴょん